

早稲田大学大学院文学研究科  
博士学位申請論文審査報告要旨

申請者氏名	孫 愛琪
学位の種類	博士(文学)
論文題目	明代版本挿絵芸術の研究—『西廂記』を中心として
審査要旨	<p>本研究は二つの柱によって構成される。ひとつは晩明期（万暦期）における刊本出版の流行と変貌ぶりについて、90種ほどが現存する戯曲『西廂記』（せいそうき）を中心に研究した論考である。</p> <p>まず第一章では、従来、『西廂記』本編（洛陽を舞台とする）とは無関係の附録（おまけ）と見なされてきた短編小説『錢塘夢』と挿絵の「西湖図」（いずれも杭州を舞台とする）について、『錢塘夢』の挿絵、テキスト、絵画作品を検討し、そこに、明代における恋愛観の変化（情がなければ結ばれてはならない→情があればよいという逆説的な自由恋愛論）、および名勝西湖への観光ブームの表れを指摘した。加えて、そこから窺える晩明以降の市民社会の成熟ぶりについて考察した。</p> <p>第二章は、『西廂記』のヒロインとして挿絵に描かれた鶯鶯像についての考察である。美人画の主流が全身を描く群像であったのに対し、なぜ鶯鶯像は半身像であったのか。論者が見出した、南宋陳居中が描いたと伝わる肉筆の鶯鶯像は、豊富な美人であるがやはり単独半身像の形をとっている。また論者は加えて、鶯鶯像が明末には江南の仏教寺院に飾られていた文献史料があることを紹介し、鶯鶯像の源流が、唐宋に禅宗絵画の画題として成立していた単独半身女性像である馬郎婦観音や靈照女像に求められること、つまり女性の罪業を戒める意味をもっていたことを指摘した。</p> <p>第三章は、晩明期杭州の出版界をリードした書房・容與堂の出版活動について。容與堂は『西廂記』や『水滸伝』（ともに1610年ころ刊）をはじめとする膨大な挿絵入りの俗文学を出版したが、その挿絵は従来とは一線を画し、文人画風の詩意風景図、明末の画家呉彬や陳洪綬に代表される万暦期変型主義絵画（奇想派）の山水表現、仇英・尤求らが得意とした美人画など、当時の絵画界において人気を博した流行のスタイルを取り入れ、単なる絵解きとしての挿絵ではなく、鑑賞性の高い、革新的な絵入本を作り上げた功績を指摘した。これは杭州版画の精緻というべき画譜類の刊行へと発展する。</p> <p>第四章は杭州容與堂の『西廂記』『琵琶記』の挿絵に携わった福建莆田出身の画家・趙珣（はじめ趙璧）の生涯と画業についてまとめた。趙珣は福州で仏教に帰依したため、彼の作品は黄檗僧の渡来とともに日本の文人社会にもたらされ、黄檗僧のみならず、田能村竹田や頼山陽、谷文晁らによって高く評価された。加えて本論文では、論者が日本や中国で確認した趙珣作品43点をリストアップした附表が添えられており、趙珣研究の基礎資料としての意義は大きい。</p> <p>第五章は福建建陽の出版事情について。建陽書房の劉応襲が刊行した『西廂記』（李卓吾批評）を取り上げた。これは1618年に金陵の書肆師儉堂が上梓した『西廂記』（陳繼綬批評）と内容が酷似しており、先行研究では建陽の劉応襲本が先で、金陵師儉堂本はそれを翻刻したとされていたが、論者は両者の挿絵を精査し、その異同を丁寧に比較検討することによって、実際は劉応襲本の方に写し崩れが見られることを確認した。つまり劉応襲本は海賊版であり、批評者や挿絵画家名の変更、改ざん、盗作がおこなわれていた実態を解明した。</p>

申請者氏名 孫 愛琪

第六章は本論文のもう一つ一つの柱をなす。明末清初の版本が長崎へ輸入され、日本の画家たちにどのような影響を与えたかについての考察である。図様の類似比較に関する先行研究は多いが、論者は図様の改変にともなう日本側の受容意図にも着目した。文化元年（1804）、江戸の谷文晁が翻刻出版した『凌煙閣功臣図』は、その原本が清朝の1668年に宮廷画家劉源が刊行した『凌煙閣功臣図』（唐代の功臣24名を描いた宮中凌煙閣の壁画）とされてきたが、論者は両者の比較検討をおこない、文晁本では画家名が劉源から陳洪綬へ改変されていること、日本で絶大な人気があった画家沈南蘋（1731年長崎に渡来）に仮託された跋文がをつくことなどから、文晁が摸刻した伝陳洪綬筆の肉筆原図は、おそらく長崎の唐絵目利系画人が制作した贋作であることを指摘した。さらに論者は、刊行の背景には、文晁が仕えた松平定信による、君臣の礼を賞揚する意図があったと見る。従来見過ごされてきた斬新な視点であり、日中美術交流史研究に寄与する成果として評価される。

以上のように、本論文は晩明期の刊本出版の実態について、多方面にわたって新知見を提示した労作である。さらに、日中美術交流史に関わる重要な研究成果も含まれている。公開審査会においては、第六章が全体のまとめから見ると唐突であるとの意見があったが、各章ごとの完成度は高く評価された。よって本審査会は全員一致をもって孫氏の博士学位申請論文を可と判定した。

審査会開催日	2023年6月24日
--------	------------

審査委員資格	所属機関名称・資格	氏名	専門分野	博士学位
主任審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	成澤 勝嗣	近世日本絵画史	
審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	山本 聡美	中世日本絵画史	博士(早稲田大学)
審査委員	上智大学・名誉教授	小林 宏光	中国絵画史、中国版画史、 近世日中美術交流史	美術史学博士 (カリフォルニア大学バークレイ校)